

未来社会を拓いていく子どもの学力を育む教育課程の工夫 ～保幼小中連携を見据えた、教育課程の在り方～

東京都中野区立みなみの小学校 吉羽 茂

I 現状と課題

1 現状認識

新学習指導要領改訂の趣旨を生かして教育課程を編成していくうえで、重視すべきものに「社会に開かれた教育課程」、そして「カリキュラムマネジメント」がある。一方、中野区では、児童・生徒数の減少が進む区立小・中学校を適正な規模となるように再編して学校の活性化を図る「区立小中学校再編計画」を進めてきた。そのうえで、一人一人の可能性を伸ばし、未来を切り拓く力を育むことを目指し、「幼児期から小・中学校15年間の成長や発達、学びの連続性を見据えた保幼小中連携教育を推進する」、「学校再編により新たな地域づくりで、家庭・地域・学校が相互に連携・協力・補完し合い、社会全体で子どもを育む」ことが重要な教育施策として位置付けられている。中野区の目指す保幼小中連携教育は、学校再編と密接に関連した教育施策となっていることが大きな特色といえる。

2 課題分析・アプローチの視点

これからの時代を生き抜き社会に貢献できる児童を育成するために、保幼小中連携教育で目指す姿を社会や地域と共有し、カリキュラムマネジメントを実施する必要がある。

II 研究の概要

1 中野区の連携教育の経緯

「中1ギャップ」といわれる中学校生活への不適応、いじめ問題など、多様化・複雑化する学校現場の課題を解消し、確かな学力、豊かな人間性、体力向上を目指し、平成25年度から全区立小中学校で小中連携の取組がスタートした。平成31年度までを移行期、充実期、発展期の3期に区切り、段階的に取組の充実を図っている。

保幼小の連携は昭和37年、私立幼稚園長の呼びかけで始まり、その後、保育園も加わり「保幼小の連絡協議会」となった。平成30年度は、公設民営保育園と区立保育園、その他の保育園、区立幼稚園、私立幼稚園、認定子ども園、区立小学校の職員約800名がブロック毎に協議を行った。

現在、これまでの小中連携と保幼小連携から、保幼小中連携教育へと転換の時期を迎えている。

2 小中連携取組事例

- (1) オール中野の取組
 - ① 小中連携教育協議会（年2回）
 - ② オープンキャンパス（年3回）
 - ③ 乗り入れ指導（中→小 年3回、小→中 年2回）
- (2) 校区の特色ある取組
 - ① 小中連携あいさつ強化週間
 - ② 小学校や地域行事への中学生ボランティア派遣
 - ③ 中学生による本のポップ紹介、作品展示
 - ④ 引渡し訓練の合同開催

- ⑤ 中学校ストレートスケアード安全教室への参加
 - ⑥ 中学校の進路説明会への保護者の参加
- (3) 学校再編と連動させた取組
統合再編を機に、小中連携の充実と新しい学校づくりの関連を図った。

- ① 学校スタンダード、SNSルールの作成
- ② 家庭学習の手引作成

3 保幼小連携取組事例

- (1) 定期的な連絡会の開催
A小学校では、区共通の「保幼小の連絡協議会」に加え、年3回の連絡会を開催した。地域や学校の実態に即した連携の柱を設定し協議を重ねている。
- (2) 小学校の生活を知ることで安心感を高める取組
 - ① 校庭や教材園などを活用した日常的な交流
 - ② 行事や生活科での交流
 - ③ 保育園、幼稚園の保護者会への教員派遣
- (3) スタートカリキュラムの実践
B小学校では、小学校生活を円滑にスタートできるよう、入学から5月の連休明けまで『スタートカリキュラム』を実施した。この間は、教科の名称を使わずに「なかよタイム」「わくわくタイム」「ぐんぐんタイム」という枠組みで学習を行った。最初は15分程度で活動を区切り、徐々に45分の授業へ移行していった。段階的な指導で、児童が小学校の生活や学習に向かいやすくなった。

III 成果と課題

1 成果

小中連携は、オール中野の取組と各中学校区の特色ある取組の充実により、中野区全体として学力や体力の向上、豊かな心の育成という成果が見られた。また、保幼小連携では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の育成を目指した就学前教育の工夫や入学直後の「スタートカリキュラム」の実施などの取組も生まれている。

2 課題

今後さらに、各中学校区単位で進めている小中連携と保幼小連携を結び付け、中野区の目指す保幼小中連携教育の在り方や具体像を確立していく必要がある。

IV 提言

連携の推進に向け、校長間で定期的に連絡会をもち、課題の整理や次年度に向けた見通しを共通認識した。また、組織を工夫し、連携校同士の担当者会を定期的に開催させ全体の調整を図ることで、各実践が円滑に進行し、教員のボトムアップにも繋がった。今後、校長会として取組を集約し、保幼小中連携教育の内容充実について教育委員会に提言を行い、中野区モデルを確立していく。